

2025年度

入学試験問題

社 会

40分

1. 受験番号・氏名を解答用紙に書くこと。
2. 受験番号は算用数字で書くこと。(例:123)
3. 鉛筆などの筆記用具・消しゴム以外は使わないこと。
4. 用紙を立てて見ないこと。
5. 質問(印刷不明のところだけ)のある場合、鉛筆などを落とした場合、
トイレに行きたくなった場合、気持ちが悪くなった場合は、だまって
手をあげること。
6. 解答用紙のみ回収します。

わたしたちは、たくさんの物に囲まれて生活を送っています。食料品はもちろんのこと、衣類や洗剤、家具、寝具、文房具、本など、家の中を見回すだけで数え切れないほどの物があることでしょう。これらの物は、どのようにしてみなさんの家にたどりついたのでしょうか。ここでは物の輸送、荷物を運ぶことについて考えてみましょう。

1 次の文章を読み、地図1を見て、間に答えなさい。

17世紀のはじめ、全国を統一した徳川家康^{とくがわいえやす}によって幕府が開かれました。米や各地の特産品などを生産地から都や城下町へ運ぶことは古くから行われていましたが、大都市を中心に日本各地を結ぶ輸送路や輸送のしくみができたのは江戸時代です。

新たに政治の中心となった江戸には、各地から武士が集められました。幕府は江戸を中心に五街道を整備しました。街道では、武士や商人などをはじめとする旅行者が通行するとともに、(A)とよばれる業者が手紙や小荷物、金・銀などを人を走らせて運びました。街道に設けられた(B)町には馬が準備され、荷物の輸送が行われました。

一方、大都市となった江戸に住む人びとの生活を支えるために、全国から米をはじめとする産物が大量に運ばれました。それらを一度に大量に運ぶために重視されたのが船でした。17世紀後半になると、商業の中心地である大阪と、江戸との間を大きな帆を張った船が、太平洋を経由して定期的に往来するようになりました。また、①東北地方から日本海や瀬戸内海を経由して大阪に荷物を運ぶ西まわり航路や、東北地方から太平洋を経由して江戸に荷物を運ぶ東まわり航路が開かれました。

海路の整備が進むのと同じころ、それまで江戸湾（現在の東京湾）を河口にしていた利根川の流れを大きく変える工事が行われ、銚子^{ちようし}（現在の千葉県にある）から太平洋に直接注ぐようになりました。一方、利根川から分かれて江戸湾に流れる支流のひとつとなったのが江戸川です。この工事の後、東北地方からの荷物の中には、銚子から、利根川と江戸川を経由して江戸に運ばれるものも増えました。このように運ぶことにより、②房総半島沖を回る難しさを避けることができました。また、江戸時代の後半になると関東各地に生糸や醤油、和紙といった商品の産地が生まれ、河川を利用して江戸に荷物を運びこむために往来する船も増えました。

19世紀後半、外国との貿易がはじまると、日本からの主要な輸出品となったのが生糸でした。生糸の主な産地は信州^{しんしゅう}（現在の長野県）や上州^{じょうしゅう}（現在の群馬県）だったので、五街道のひとつである(C)や、利根川・江戸川を経由し、開港地のひとつとなった横浜へ運ばれて取り引きされました。

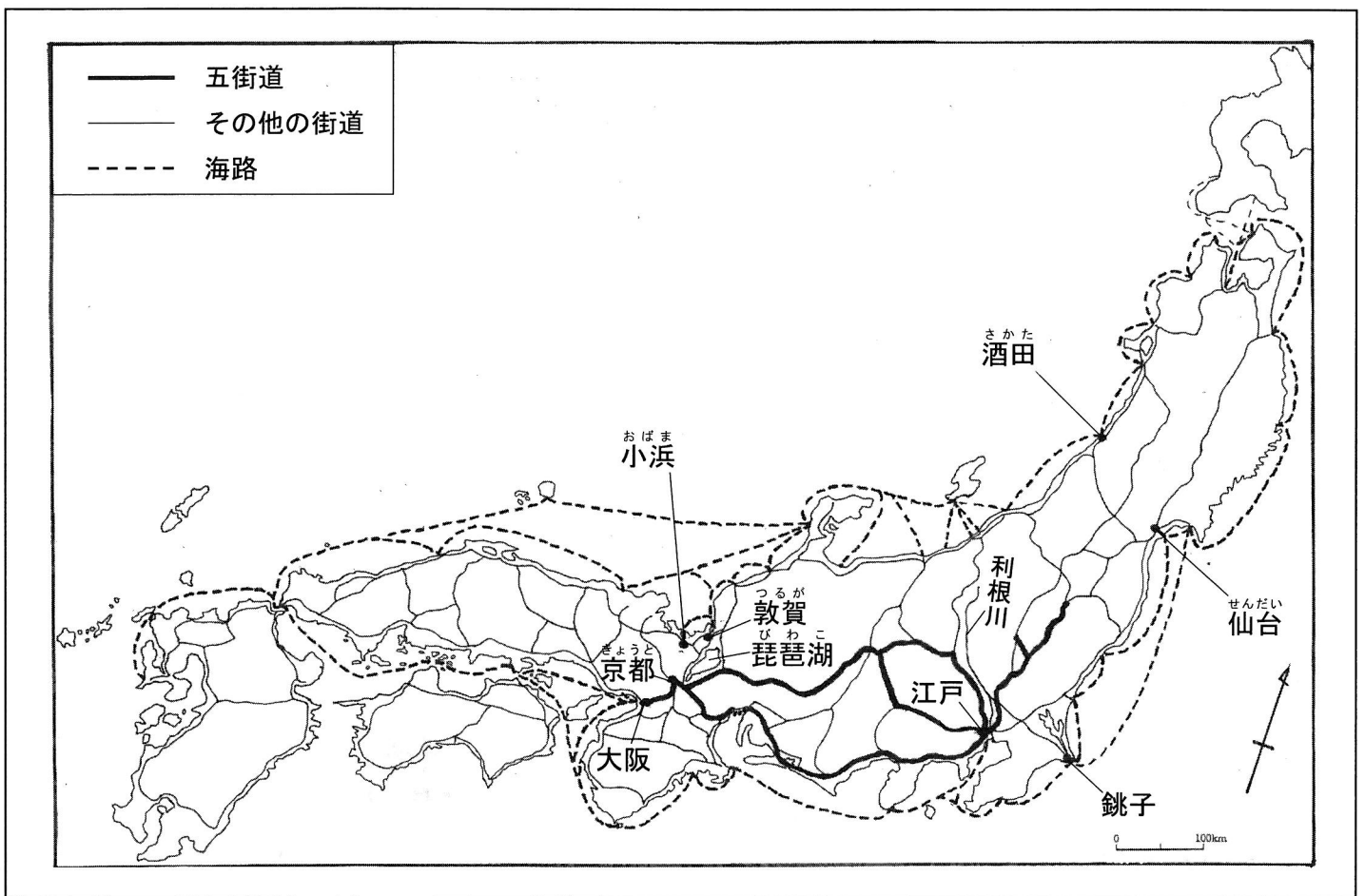
明治時代になると、主な街道は国が管理する国道として整備されました。また、大きな川の河口に港がつくられ、川と都市を結ぶ「運河」とよばれる人工の河川も開かれました。

一方、③1880年代に入ると鉄道が本格的に発展しはじめ、東京から埼玉県を通して群馬県につながる鉄道が開通していきました。④鉄道が開通してすぐのころは、生糸の輸送には船が利用されることが多かったようですが、数年後、群馬から横浜まで路線が直接つながると、その大部分が鉄道に移っていったと考えられています。

しかし、明治時代になっても、国内の遠く離れた都市や地域の間で大量の荷物を輸送するためには、太平洋や日本海沿岸の海路で船を用いて運ぶことが一般的でした。大都市周辺の港では埠頭まで鉄道が敷かれ、海路と結びつきました。

大正時代から昭和時代初期にかけて、さらに経済が発展していく中で造船業が発達したこともあり、海路で運ばれる荷物の量は大きく増加しました。

地図 1



まるやまきなり ぜんきんだいにほん こうつう しゃかい
丸山雍成『前近代日本の交通と社会』(2018)より作成。

問1 (A), (B), (C) にあてはまる言葉をそれぞれ答えなさい。

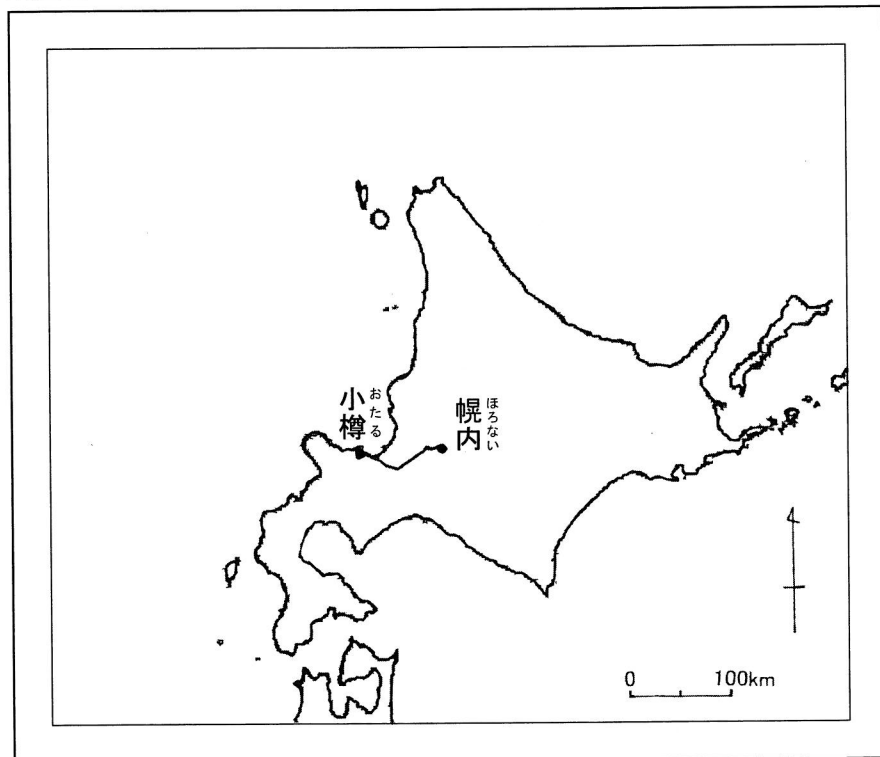
問2 下線部①について、西まわり航路が開かれる前、東北地方の荷物は、地図1中の敦賀や小浜から、街道と琵琶湖を通して大阪に運ばれることが一般的でした。運ぶ距離の近いこのルートに比べて、西まわり航路にはどのような利点があったと考えられるか、説明しなさい。

問3 下線部②について、房総半島沖を回って江戸に向かうには、どのような難しさがありましたか。当時の船の特徴をあげながら説明しなさい。

問4 下線部③について、地図2は1882年までに北海道で開業した鉄道を示したものです。この鉄道は、内陸の産物を運ぶためにつくられました。その内陸の産物を、次のア～エから1つ選びなさい。

ア 茶 イ 綿花 ウ 石炭 エ 石油

地図2



こくどすうちょうほう てつどうしけいれつ ねんぽん
国土数値情報『鉄道時系列データ 2023年版』より作成。

問5 下線部④について、次の資料1～3を読み、これらの資料から言えることを述べた文として正しいものをア～エから1つ選びなさい。

資料1 1883年に^{にほんてつどうがいしゃ}出された日本鉄道会社の報告（『^{こうぶしょうきろく}工部省記録 ^{てつどうぶ}鐵道の部』より作成。）

^{ほんじょう}本庄駅（埼玉県）が開業してからこれまでのところ、旅客収入に比べて貨物収入は3分の1ほどである。さらに、上り（東京方面へ）の荷物は、下り（東京方面から）の荷物に比べて3分の1に過ぎない。これは上りの主な荷物である生糸が軽いということもあるが…（中略）…^{うんぱん}運搬の際に危険が大きいにもかかわらず、運賃の安い船を利用する荷主が多いことが原因である。

資料2 1884年に^{にほんてつどうがいしゃ}出された日本鉄道会社の報告（『^{こうぶしょうきろく}工部省記録 ^{てつどうぶ}鐵道の部』より作成。）

（1884年2月17日から）上り貨物の三級品以下（^{ふく}生糸などが含まれる）は、これまでの運賃から3分の1を割り引いて運ぶこととする。

資料3 1888年に^{ぐんまけんし}出された群馬県の調査報告（『^{きんだいげんだい}群馬県史18近代現代2』より作成。）

今まで^{ほんぐん}本郡（^{まえはし}前橋市など）は生糸が有名であったが、…（中略）…荷車で^{ひらつか}前橋を経由して^{いせさき}平塚（伊勢崎市・利根川ぞいの港があったところ）に送り、そこから船で東京に向かい、そして汽車に^{とうちやく}乗せて横浜に到着していた。その運賃は1駄（^だ約135キログラム）あたり4円程度で少なくとも4、5日かかっていた。前橋に汽車が開通すると、運賃は半額となり、2日間で横浜に着くようになった。

ア 鉄道が開通してすぐのころは、上りよりも下りのほうが運ばれる荷物が少なかった。

イ 鉄道が開通してすぐのころは、鉄道で荷物を輸送することが船に比べて危険であると考えられていた。

ウ 鉄道会社は、全ての荷物の運賃を大幅に^{おおはば}引き下げることによって、鉄道での貨物輸送を増やそうとした。

エ 鉄道で生糸を輸送するほうが、荷車や船を使うよりも早く横浜に着くようになった。

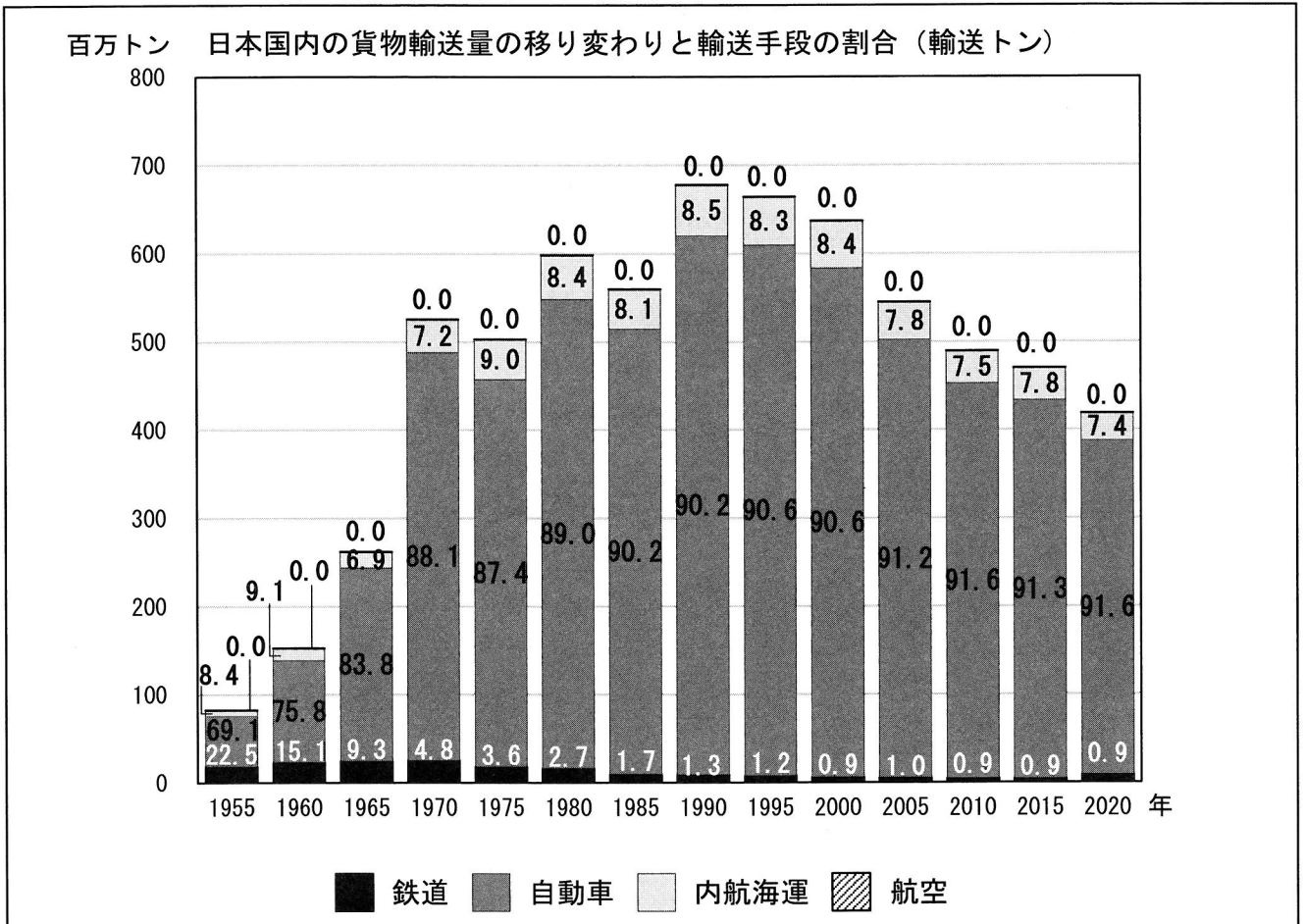
2

だいにじせかいたいせん

第二次世界大戦後の貨物輸送に関するグラフと図を見て、問に答えなさい。

次のグラフ1は日本全体で、荷物をどれだけ輸送したかを表したものです。運ばれた荷物の量を表す単位は「輸送トン」と言います。グラフ1では何を利用して輸送したか、輸送手段ごとの割合も示しています。「自動車」は乗用車とトラック、「内航海運」は国内の船による輸送を指します。

グラフ1



そうごうせいさくきょくじょうほうせいさくほん ぶじょうほうせいさくかこうつうけいざいとけいちょうさしつ じどうしゃゆ そうとうけいねんぼう
 総合政策局 情報政策本部 情報政策課 交通経済統計調査室 『自動車輸送統計年報』
 てつどうゆ そうとうけいねんぼう ないこうせんぱくゆ そうとうけいねんぼう こうくうゆ そうとうけいねんぼう
 『鉄道輸送統計年報』 『内航船舶輸送統計年報』 『航空輸送統計年報』 より作成。

注：航空輸送の割合が0.0%となっているところは、実際には0.0002～0.02%ある。

問1 グラフ1を見ると、1955年から1970年にかけて輸送量が大きく増えています。輸送量の増加と輸送手段の割合の変化が何を表しているかを説明する文としてふさわしくないものを、次のア～エから1つ選びなさい。

ア 工業と貿易が発達し、原材料の輸送が増えた。

イ 冷蔵庫・洗濯機・テレビの生産が増え、普及した。

ウ 自動車が増え、主な道路の舗装が進み、高速道路が整備されはじめた。

エ 大都市に向けた農産物の生産が増え、インターネット販売が広がった。

問2 グラフ1の輸送量が急増した1960年から1970年には、九州の各県に空港がつくられていたことから、九州に工場をつくって機械部品を生産し、航空便で京浜工業地帯などにある工場へ輸送することが増えました。その機械部品の種類を、次のア～エから1つ選びなさい。

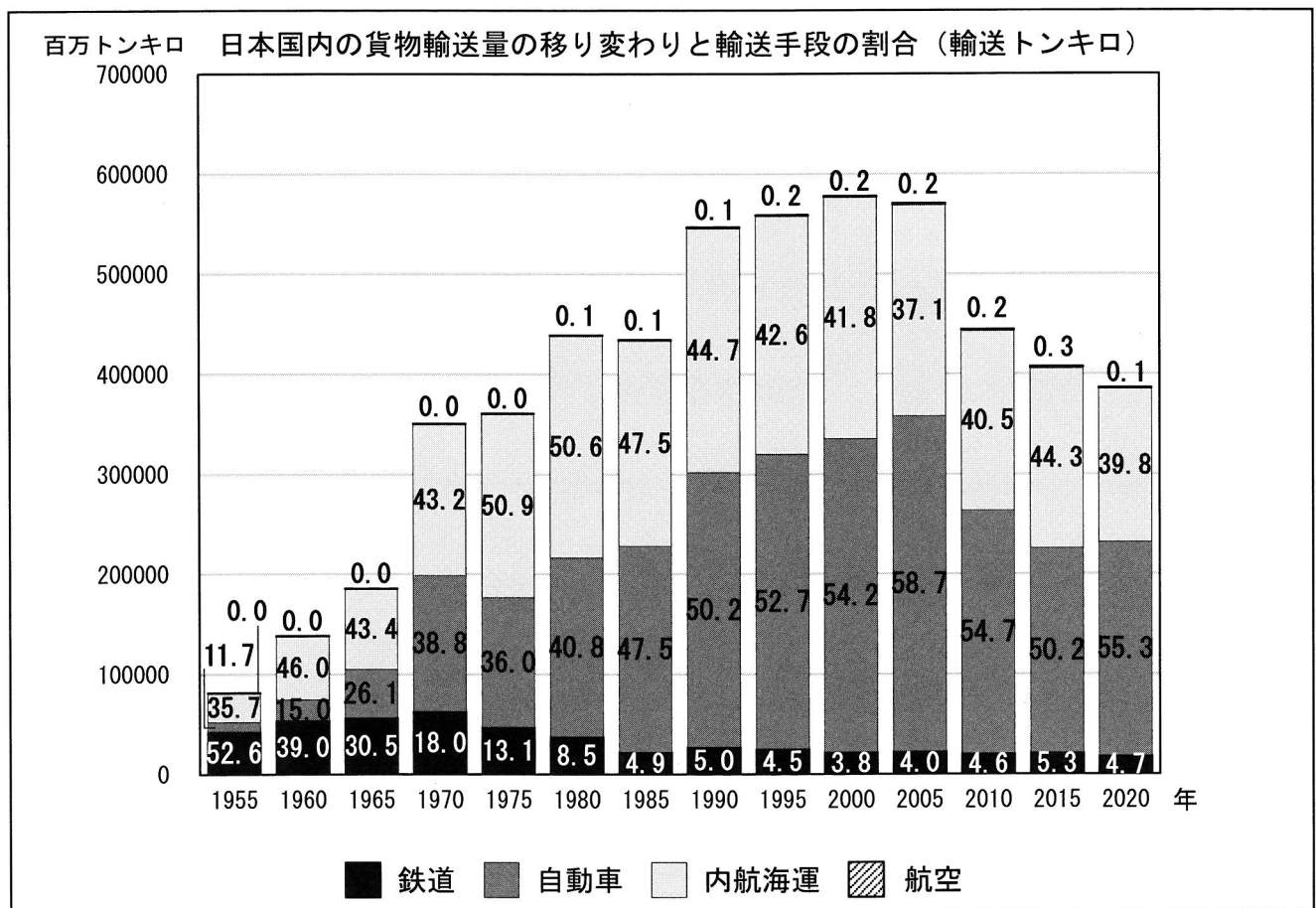
ア 鉄道車両部品 イ 液晶パネル ウ 自動車部品 エ 半導体部品

次の**グラフ2**は、輸送手段ごとに運んだ荷物の重さに、その荷物が運ばれた距離をかけたものを表しています。この単位を「輸送トンキロ」と言います。

例えば、貨物列車が10トンの荷物を300キロメートル離れた場所に運んだとします。このときの輸送トンキロは10トン、輸送トンキロは3000トンキロとなります。

また、ある年に鉄道による輸送が3000トンキロ、自動車3000トンキロ、内航海運4000トンキロ、全体で10000トンキロだったとすると、輸送手段ごとの割合が鉄道30%、自動車30%、内航海運40%となります。

グラフ2



総合政策局情報政策本部情報政策課交通経済統計調査室『自動車輸送統計年報』

『鉄道輸送統計年報』『内航船舶輸送統計年報』『航空輸送統計年報』より作成。

注：航空輸送の割合が0.0%となっているところは、実際には0.001～0.04%ある。

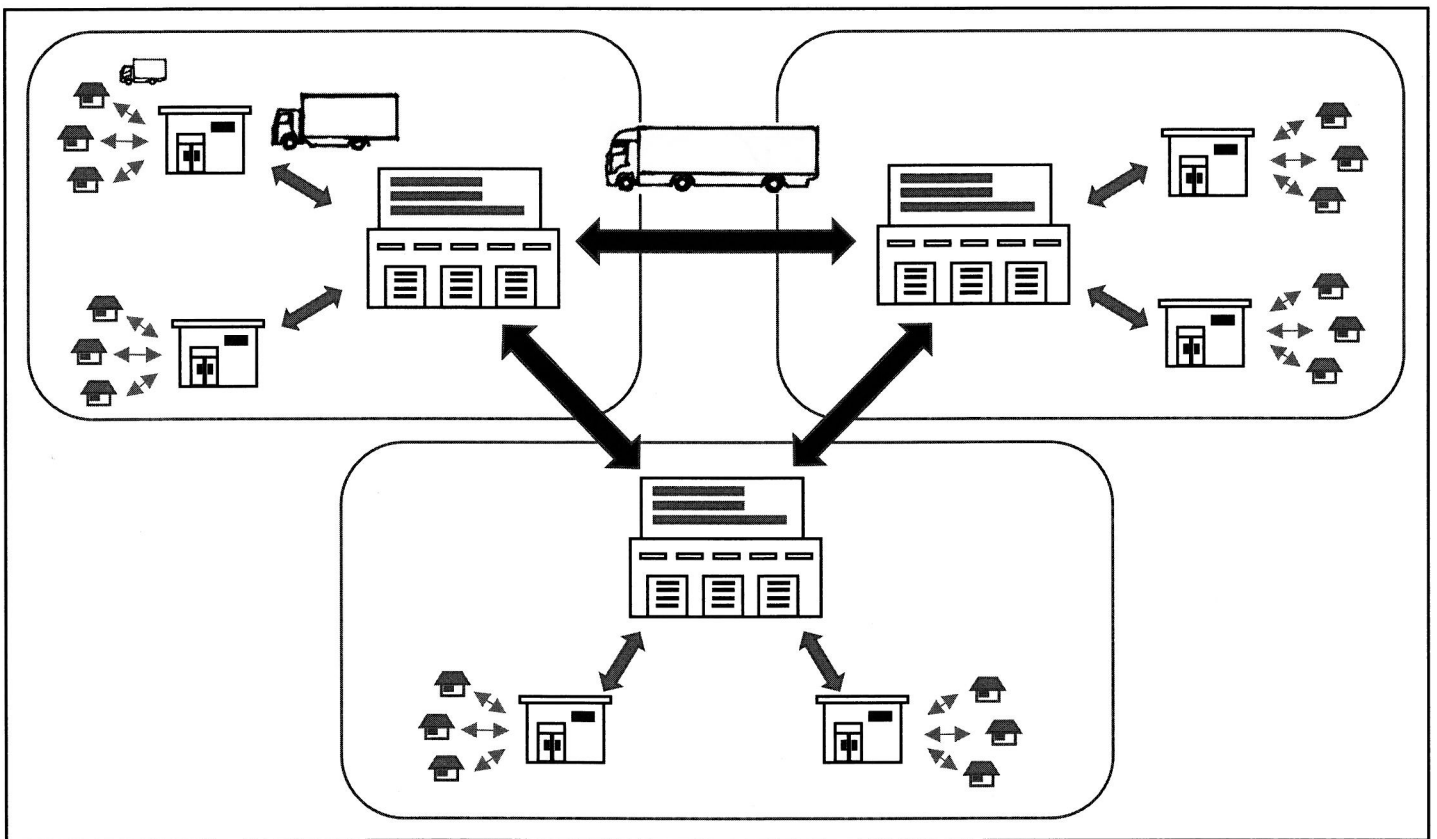
問3 グラフ2を見て、鉄道や自動車に比べると、内航海運の割合の移り変わりにはどのような特徴があるか、説明しなさい。

問4 輸送トンが最も多かった1990年について、輸送トンのグラフ1および輸送トンキロのグラフ2における内航海運と自動車の割合を見て、なぜ輸送トンと輸送トンキロで割合の違いが出るのか、考えて説明しなさい。

問5 1970年代の後半から宅配便が始まり、統計では1981年には1億682万個、2020年には48億3647万個の荷物が運ばれました。このようにトラックによる輸送量が増加しました。宅配便は日本の多くの場所へ翌日に荷物を輸送することができます。そのしくみをわかりやすく簡略化して表すと、下の図のようになっています。この図から読み取れることについて、(1)、(2)に答えなさい。

なお、図中の^{きょ}は個人または店を表します。^{しせつ}は荷物を集めたり、配達したりする宅配業者の支所で、各市や町につくられています。^{きょ}は「ターミナル」という荷物の集配の拠点として各都道府県につくられた施設を表します。この施設は1つの都道府県に複数ある場合もあります。

図



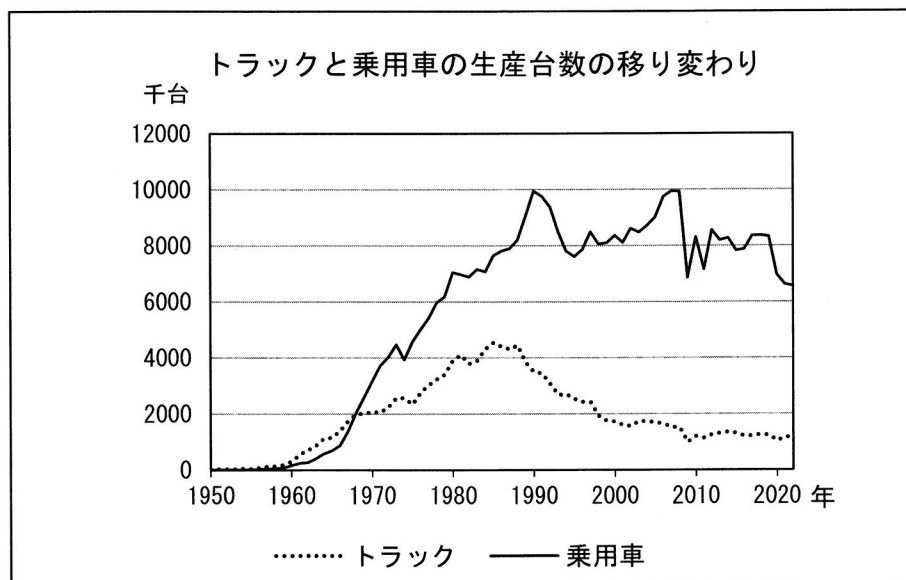
(1) 他の県への輸送において、ターミナルにはどのような役割があり、ターミナルから他県へ向けてはいつ、どのように輸送するか、図をもとに考えて答えなさい。

(2) 支所に届いた荷物を個人や店へ早く届けるために、宅配業者はどのような工夫をして運んでいると考えられるか答えなさい。

問6 1970年代の半ばから、コンビニエンスストア（以下はコンビニとする）が各地にできました。最近では1つの駅の近くに、いくつも同じ系列のコンビニがあります。どこも店は小さいですが、いつ行っても、おにぎりやサンドイッチを買うことができます。このように消費期限の短い食品をいつでも提供できるようにするため、どのように工夫して運んでいるのか、考えて答えなさい。

問7 グラフ3は、1950年からのトラックと乗用車の生産台数の移り変わりを表しています。5ページのグラフ1と合わせてみると、1980年代の後半からトラックの生産において、どのような変化があったと考えられるか、説明しなさい。

グラフ3



にほんじどうしゃこうぎょうかい じどうしゃとうけいねんぼう せかいじどうしゃとうけいねんぼう
日本自動車工業会 『自動車統計年報』 『世界自動車統計年報』
にほん じどうしゃこうぎょう
『日本の自動車工業』より作成。

- 3 これまで見てきたように第二次世界大戦後、荷物を運ぶ量（輸送トンと輸送トンキロ）においてトラックが主力になりました。ここまでの問題文や答えた内容をもとに、トラック輸送の利点と、長距離のトラック輸送を可能にしたことに注目して、トラックが輸送の主力になった理由を説明しなさい。

1

問 1

A

B

C

問 2

※

問 3

問 4

問5

※

2

問 1

問2

問 3

※

問 4

※

問 5 (1)

※

(2)

※

問 6

問 7

※

3

※

受験番号		氏名		評点	※
------	--	----	--	----	---